

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470400132		
法人名	有限会社 花しょうぶ苑		
事業所名	グループホーム 花しょうぶ苑		
所在地	三重県亀山市本町1丁目2番2号		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470400132&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成23年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は明るく地域と共に《和気あいあい》と過ごすことを念頭に利用者と関わっている。毎月来苑の介護相談員からは、利用者職員ともに日よりの格差がなく何時来ても明るく生き生きしており居心地が良いとの評価をいただいている。施設は街の中にあり幼稚園、小学校、高校が近く、開設以来子供たちとの交流も続いている。地域の方から催し物の誘いを受けたり、野菜の苗を頂き作り方を教えていただいたりと温かいお付き合いもあり、子供から高齢者まで地域の人々が気軽に立ち寄れるサロンのような存在でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

金魚の餌やりを楽しみにする人、字を書くのが得意で毎日の献立をボードに記入する人、食事の準備を手伝う人、作品作りで色彩豊かな感覚を披露する人、百人一首を得意とする人、歌が好きな人等、それぞれ何かしらの役割を持ち穏やかに生活をしている。毎日午前中にコーヒータイムを設け、利用者職員が寛ぎながら会話をすることを大切にしているのは、職員自らがケアを振り返りより本人の理解を深め可能性やその人らしさを見て接することにもつながっている。又、市内の大型ショッピングセンターや昔ながらの商店街、学校の近くに立地する事業所は、家族や地域の方が頻りに足を運びやすいので、常に地域とのつながりが感じられる。自家菜園では地域の方からいただいた野菜の苗や種を植えて食べるまで、皆で草取り・かかし作り・収穫を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が家族との関係を保ちながら地域に根ざしく和気あいあい>と過ごせることを理念としている。また、管理者、職員は利用者が明るく元気で生活できるようにケアに取り組んでいる。	利用者と職員が家族のように明るく穏やかに過ごしており、それは、利用者が毛筆で書いた「和気あいあい」という掲示そのものの雰囲気である。職員はこの雰囲気を壊さないように常に心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々から採れたて野菜や苗をいただき作り方を教わったり、催し物のお誘いを受けている。また隣接する小学校の生活科の授業で話しをしたり、子供たちが訪問してくれたりの交流が続いている。	事業所で収穫した野菜を近所へ配ったり、頂いたり、町のイベント(亀山市・地藏盆)へでかければ、日頃から交流している小学生の子供たちが声をかけてきたりと、昔ながらのご近所付き合いが当たり前に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は市の高齢者保健福祉計画ワーキンググループのメンバーで地域の研修などに参加し認知症ケアや介護予防の啓発に努めている。また地域の中学生や実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告や生活の様子などを見てもらい、各々の立場からの意見やアドバイス、情報提供をいただき日々のケアに取り入れサービスの向上に役立てている。	新しく地域住民の方も加わり、より地域の理解や支援を得る機会となっている。主に行事の報告から、家族の思い、地域の情報、行政からのお知らせ等の内容を双方向的に話合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や更新手続きなどで市役所を訪れ、担当者に状況報告や相談を行い、地域の情報入手にも努めている。また毎月介護相談員を受け入れ意見交換を行っている。	市担当者が事業所を訪れ、入居の依頼を持ち込んだり、事業所の課題解決に向けて協力してくれている。管理者は市の高齢者保健福祉計画ワーキンググループのメンバーであり、認知症ケアや介護予防の啓発に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、利用者が外に出られるとさりげなく職員が付き添い落ち着くまで外で過ごすなどしている。会議等では拘束をしないケアを話しあっている。	身体拘束廃止委員会を設置している。車いすに座る時間を減らしていくための話し合いをする等、出来ることは取り組んでいる。家族にはそれに対するリスクも説明し理解してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的にはもちろんのこと、言葉による暴力はないか、日常的に話合っている。また会議等で虐待に関する資料を用いた話し合い、高齢者虐待防止法に関する理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<誰もが住み慣れた地域で、安心して生活できるように>との思いで、少ない時間ではあるが、会議の場で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学や話す機会を何度も持ち、不安の解消や疑問に対しその都度対応している。また契約や解約時にはご家族が納得いくように時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月来てもらっている介護相談員とも利用者は顔馴染みで何でも話している。また相談先を明記した意見箱をホームの入り口に置いており、家族の来訪時には苦情や意見の引き出しに努め運営に反映させている。	職員から昔話や季節等の話題を振り、家族や利用者の要望を引き出し易い状況を意図的に作っている。利用者から献立の要望(松茸ご飯等)があれば、いっしょに買い物にかかる等利用者が喜ぶことを実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常会話の中でも意見等が言いやすいように心がけている。出された要望や意見はできる限り受け止め、働く意欲や質の向上につながるようにしている。	月1回のミーティング以外に、毎日職員同士が自由に話し合える時間がある。運動会のプログラムは職員の提案が反映されている。又、必要に応じて管理者との個別相談も受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与に過去半年間の勤務態度や実績を反映させるとともに、年1回の給与水準の見直し等にも反映させ改定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修等には可能な限り交替で参加し、費用面での援助もしている。研修後は朝礼や会議で報告しフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会等が主催する研修会に参加し質の向上に取り組んでいる。また近隣のグループホームを訪問したり意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	デーサービス利用からグループホームに入居される方もあり、職員とも馴染みで思いを伝えてもらいやすい雰囲気を感じている。また、家族と共に何度も施設を訪問してもらい安心して利用ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から在宅での苦労話などをよく聞き、本人の思いや家族の求めていることを踏まえたうえで、今後の暮らしやケアについて何度も話し合い、家族との関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族に思いや現状を十分に聞き、可能な限り柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日頃から、一緒に生活している家族という思いの中で接している。共に泣いたり笑ったり、また利用者に教わることも多々あり、時にはねぎらいの言葉をかけてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には利用者の日頃の様子を詳しく伝え、家族と共に喜んだりびっくりしたりしている。また、外泊や外出時には双方が安心して過ごせるようにケアの方法を説明し、家での様子も詳しく聞いてケアに活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や外出に出かけ、知人や昔の同僚に声をかけられたり、知人に施設に来てもらい昔話を花を咲かせることもある。また、家族と共に墓参りをしたり、親戚の家を訪ねてもらったりしている。	カラオケ仲間が来て楽しい時間を過ごす人、家族や親戚が訪れる人、また買い物に出掛けることで知人と出会う機会を持つ人もいる。それぞれの人間関係を継続させるために、事業所側からも気軽に立ち寄ってほしいと声をかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の特性や能力を活かし、読み手や取り手に分かれ百人一首を楽しんだり、タッピングタッチで互いに触れ合い、いたわりあったりする場面もあり、職員は付かず離れずの立場で見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所後も病院や施設を訪問している。また家族にも近況を尋ねたり相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話などから各々の希望や思いを把握している。また希望などが表出困難な場合は家族から情報を得たり、日々の生活の中での表情などから読み取るなどし、心地よく過ごせるように努めている。	家族に本人の暮らしの情報・生活史・暮らし方をシート(センター方式を利用)に記入してもらい、それを手がかりにしている。結果、一人一人の言動や行動の理解が深まり、その人らしさを大切に接し方をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活の様子などを聞いているが、日々の生活の中で、家族も知らないことを話されることもあり、家族も喜んだりびっくりされることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日頃から利用者の生活のリズムを把握しているが、日によって心身の状態が変化することもあるので注意深く見守り状態に応じた過ごし方をしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症ケアマッピングを基に利用者の思いや表情、家族の希望、日々の介護をもとに職員全員で意見交換などを行い、各々の思いに添えるような介護計画を作成している。	職員全員が、自分たちのケアが本人らしい生活の支援になっているかどうか話し合い、毎月モニタリングを実施し、家族の意見も取り入れながら必要に応じて介護計画を見直し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、連絡ノート、各種チェック表に日々の様子や本人の言葉などを記録し、職員間で情報の共有を行っている。また利用者がゆったりとした日々が送れるように話し合いながら計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方に見える方の買い物や受診にその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化会館の催し物に出かけたり、招待を受けたり地域との接点を持ちながら、文化的で生き生きと暮らせるように支援している。また民生委員とも地域の情報を交換しあったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に月2回の往診を受けており、利用者も親しみ信頼している。随時の往診や24時間指示を受けられる体制になっている。また利用前からのかかりつけ医の方もおり、受診時には家族に日頃の状況を詳しく伝えている。	馴染みの医師をかかりつけ医としている方は、家族の付き添い受診で、協力医がかかりつけの場合は月2回の往診、緊急時は24時間指示を受けることができる。併設のデイサービスの看護師で対応可能なこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデーサービスに看護職員がおり、距力易からアドバイスを受けている。看護職員は近くに住んでおり、夜間でも駆けつけ対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は馴染みの職員が何度も見舞っている。また主治医や家族、病院関係者とも治療経過や退院後のことを話し合いできるだけ早く退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応指針を定め、事業所が対応できることなどを利用開始時から本人、家族等と話合っている。状態の変化があることにも家族や協力医とよく話し合い可能な限り希望に添った支援ができるようにしている。職員も事業所内外の看取り研修を受けて備えている。	入居時に家族と本人に医療行為は対応できないとの指針を書面と口頭で説明している。終末期の対応は未だ経験がないが、希望者・対象者には看取り指針を再度説明し話し合い、同意を得た上で取り組めるように考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設のデーサービスの看護職員や応急手当の研修を受けた職員から応急手当の方法を教わり急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム三重県一斉防災訓練や自主避難訓練をご近所にも声をかけて行っている。また地震を感じた時や災害の報道時にも、利用者と避難経路や避難の仕方を話している。	年に2回(消防署1回・自主訓練1回)避難訓練を実施している。地域住民も参加で訓練を行っており、協力体制は整っている。夜間を想定し、一時避難場所である事業所前の駐車場へ利用者・職員全員が実際に避難する訓練をした。	地震はいつ発生するかわからず、特に夜間は職員が一人のため不安が大きい。机上訓練でも効果ありと言われているので、自然と体が動くようになるよう、繰り返しの訓練をお願いしたい。また防災頭巾も意識啓発になる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩として、また親や身内という思いで接している。排泄誘導時などの言葉かけで誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	例えば、几帳面な性格で、汚れた衣類も整えて清潔な衣類といっしょに片づけてしまう方には、気付かれないように汚れた物だけを探し出し洗濯をして戻したりと自尊心を損ねないように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的にテレビや新聞の情報から食事の献立を考えたり、外出先をみんなで考えたりしている。また意思表示の苦手な方には例を挙げて決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に応じ、居室で休んでもらったり、片付け物をしたり、買い物に出たりと各々のペースで過ごしてもらっている。また家族や知人の訪問で話に花が咲き食事が遅くなることもあるが本人の思いを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にそぐわない物を着ている時などは職員がそれとなく寄り添い支援している。また開設時からお付き合いのある地域の床屋さんに出張してもらい孫のような従業員に気に入った髪形にしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節の物を取り入れ、美味しく、楽しく食事ができるように心がけている。献立を書いたり、準備や後片付けを手伝ってもらったり各々ができる範囲で仕事をしてもらっている。	「おいしくて残したことがない」と利用者が口々に言う。3食とも職員の手作りで、自家菜園で収穫したり近所から頂いた季節の野菜を利用している。又、もやしのひげ取り、玉ねぎの皮むき、干切り、食器拭き等を利用者も一緒にして力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の嗜好や食事量、水分量を把握している。バランスを考え多種類の食材を使用し、見た目でも美味しく感じられ、楽しんで食べられるように盛り付けも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けを毎食後行い、磨き方が不十分な方には職員が介助したり、声を掛け支援している。義歯は洗って朝まで洗浄剤に浸け置き、歯石は歯科受診し取ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の行動や表情などから尿便意を察知し、さりげなくトイレ誘導ができるように配慮している。また排泄パターンを把握し布パンツに移行できたり、汚染が少なくなっている方もある。	トイレ誘導は、その人に合った言葉づかいで声かけをしたり、自尊心を傷つけないために職員側が利用者にトイレと一緒に歩いてほしいと頼む方法で行ったりと、皆が気持ちよく排泄できるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い野菜は圧力鍋で食べやすく調理し、乳製品や水分の摂取や食事量にも配慮している。また自然な排便促すように体操や歩行訓練を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後に沸かしており希望の日時で入浴してもらっている。季節の物(菖蒲や柚子)や入浴剤を入れたり、好きな歌を歌ったりゆっくり入浴できるようにしている。	毎日午後一人ずつ入浴可能で、温めのお湯が好きな人、湯につかる長さ等その人その人の好みに応じて支援している。拒む方には、清潔を保てるよう二日に1回はさりげなく入浴が出来るように促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良く眠れるように昼間はなるべくフロアで活動してもらい薬剤の使用が少なくなるようにしている。一人ひとりの生活のリズムを把握し、夜間は特にゆったりと接するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明は個別ファイルに綴じ常時職員が見られるようにしている。症状の変化や薬の変更は申し送りノートやミーティングで確実に伝えるようにしており、服薬時は手渡しして、空袋をもらい確実に服用できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の様子から持てる力を引き出し、書き物、百人一首の読み手など得意分野で役割を担ってもらっている。本人や家族の喜びにつながり、ケアマッピングの結果にも表れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の心身の状態や各人の希望に添って、季節の花見や外食、地域行事に出掛けしている。またお天気の良い日には菜園の世話や収穫、日光浴を兼ね玄関先でオープンカフェを楽しみ、ご近所の方とお話することもある。	亀山市・地藏盆等地域行事では、故郷や地域の人とのふれあいを満喫し、桜・菖蒲・コスモス等の季節の花見、回転ずしへ行っては気分転換を図っている。又、観光バスを手配し鳥羽・セントレア・なばなの里等の遠方へ出かけたり、御在所一泊旅行も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域行事などでは少額のお金を持ってもらい、各人が好きなものを買われるのを職員が付き添いそっと見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子供や孫から手紙や小包が届くとお礼の手紙を書き近況を知らせたりしている。また希望時には職員がそっと付き添い家族等に電話をかけてもらったりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から自然な光が差し込むフロアーは建物の中央にあり、台所からは料理の音や匂いがしてくる。壁にはみんなと出掛けた思い出の写真やみんなで作った四季折々の貼り絵などがあり、ゆったりと過ごせるように心がけている。	夏にはゴーヤで作った緑のカーテンで涼を感じ、冬には天窓に積もる雪を眺めたりできる。各居室から移動のしやすい食堂兼居室は、金魚に会いに来たり、新聞を読んだり、対面式の台所で作業をする職員と話をしたりと自然と皆が集まり過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーの2ヶ所にソファを置き、好きな時に自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などを置いたり、写真や自作の作品などを壁に貼り、居心地の良い部屋作りをしている。また家族と撮った写真や手紙を見ることで家族とのつながりが感じられるように工夫している。	家族からの手紙、家族の写真、好きなポスターが飾られた部屋、自分の日課を書いて壁に貼ってある部屋、すっきりと片付けられているそれぞれの部屋がその人らしく工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札、引き戸には好みの折り紙の名札を貼って解りやすくしている。また安全で快適に過ごせるように、フロアーや居室などで不安になったりする物はないか話合っている。		